

クラスター	炎症・免疫系クラスター			
授業科目名	血液学・腎臓病・膠原病・実習			
担当者名	責任者	高橋 直人	分担者	—
単位数	1単位(選択)		配当年次	1, 2年次
授業形態	講義		実施場所	授業計画の[実施場所]を参照
開講期間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します			
開講曜日・時間	毎週木曜日 18:00～21:30(日程の詳細は応相談)			

授業の概要・到達目標

授業の目的: 血液疾患や腎疾患等の病態と、その治療法について理解することを目的とする。
 授業の到達目標: 血液疾患や腎疾患等の病態・治療法を理解し、説明することを目標とする。

授業の概要:

- 炎症性刺激によって様々なサイトカインが産生される。その結果として種々の造血器疾患が発生する。その一つは慢性炎症に伴う貧血(炎症性貧血)であり、また他方では血球貪食症候群である。それらの病態に関して理解を深める。
- 1.の病態に基づく治療法に関して理解を深める。
- 造血器の自己免疫疾患として考えられているものに再生不良性貧血、赤芽球癆、特発性血小板減少性紫斑病などがある。その病態は特異であるが発症機序の詳細は不明で、そこに免疫の本質を解く鍵が隠されているかもしれない。それぞれの病態と発症機序の理解を深める。
- 3.の病態に基づく治療法に関して理解を深める。
- 糸球体腎炎は原発性と続発性に分類され、いずれも免疫グロブリンや補体の沈着があり、免疫系の異常と密接に関連する。最新の糸球体腎炎の病態の理解を深める。
- 5.の病態に基づく治療法に関して理解を深める。
- 腎臓の糸球体には濾過バリアーが存在し、血漿成分の選択的濾過を可能にしている。近年、このバリアー機能維持に重要な分子群が次々と同定されてきた。本講義では、濾過バリアー構成分子の異常と蛋白尿発現機序についての最新の知見を概説し、理解を深める。
- 7.の病態に基づく治療法に関して理解を深める。
- 血液疾患による続発性腎疾患が注目されてきている。いずれも異常な免疫グロブリンやサイトカインバランスの異常により引き起こされると考えられている。それらの最新の病態を理解する。
- 9.の病態に基づく治療法に関して理解を深める。

授業計画

	講義 (講義 内容)	担当教員	講座名 〔実施場所〕
1	血液疾患と炎症の病態	高橋 直人 池田 翔	血液・腎臓・ 膠原病内科学 〔講座教授室〕
2	血液疾患と炎症の治療		
3	血液疾患と免疫の病態		
4	血液疾患と免疫の治療		
5	腎疾患と免疫の病態		
6	腎疾患と免疫の治療		
7	ネフローゼ症候群の病態		
8	ネフローゼ症候群の治療		
9	血液疾患に関連する腎疾患の病態		
10	血液疾患に関連する腎疾患の治療		

授業形態および成績の評価方法・基準

講義室での講義30時間＋自学自習15時間、計45時間で1単位とし、評価は出席状況と口頭試問および筆記試験の結果、提出したレポートの内容を考慮して行う。

問い合わせ先(氏名、メールアドレス等)

高橋 直人, masaya@med.akita-u.ac.jp

その他特記事項

履修に関する情報: 社会人大学院生など、勤務等で実習に出席できない場合には日程の調整に応じます。

教科書・参考文献: 必要に応じて資料を配付する。または、文献を指定する。

自学自習時間における学習内容: 到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。